

令和4年度 学び舎ひまわり第3講 開催報告

日時 令和4年 10月8日(土) 13時~16時
会場 区役所6階 601・602・603号 会議室
受講生 21名(地域13名 企業2名 区役所6名)

プログラム内容

様々なジャンルの取組を4つとりあげ、当事者による取組内容の説明を聞いた後、グループ別に意見交換をしました。



事例① 日野南連合自治会の取組

発表者：田中 幹久氏

『災害時助け合いグループ行動のしおり』



地域独自の災害対策組織として、自治会の班を分割して4~8世帯ごとのグループを構成しています。以前は各グループに「助け合いグループ行動マニュアル」を1冊ずつ配っていましたが、リーダーを予め指名する形をとっていないため、あまり周知されませんでした。そこで、マニュアルから抜粋した個人向けの「災害時助け合いグループ行動のしおり」を全戸配布しました。それにより、助け合いグループが活性化されることを期待しています。

【受講生からの意見・気づき】

- ・自分の地域でも取り入れたいと思う部分がたくさんあり、とても参考になった。
- ・グループの運営等の質問に丁寧に答えていただき、とても参考になった。
- ・自分の地域にもマニュアルはあるが、実態に合ったものを作る必要があると感じた。
- ・「防災だより」を年2回発行するなど、運営が素晴らしい。
- ・防災については、災害が起きる時間によって対応が変わってくるのが課題である。



事例② 大久保最戸地区社会福祉協議会の取組

発表者：横川 朱實氏

『ハートカフェ』



大久保最戸地区社協は「ハートのあるまちづくり」を進めています。ハートカフェは年に3回、「子育てパパママカフェ」、「落語カフェ」、障がい児・者との交流の「ぷちカフェ」を継続的に開催。対象者を意識して、より住民同士のつながり作りを進めたいと思っています。支援者側もあまり気負わず、楽しみながら気持ちよく活動できる雰囲気大切にしています。

【受講生からの意見・気づき】

- ・ 参加するためのハードルをいかに下げるか工夫しているところに感心した。
- ・ 活動者が「自分たちも楽しむ」ということが、長続きの秘訣のような気がした。
- ・ 幅広い世代に向けて取組みを行っていることが素晴らしい。
- ・ 「活動をする上で課題は特にはないと考えるのが良い」という言葉に、目から鱗が落ちた。



事例③ 上大岡第三町内会の取組

発表者：衛藤 幹郎氏

『ICTの活用』



町内会役員の間での情報共有について課題を感じていました。そこで、ICTを活用して問題解決を図っています。情報の一元管理やリモート会議、LINEの活用により、書類を探す手間の削減や役員同士で活動状況が分かり協力がしやすくなる等の効果が出ました。役員のICTに関する理解にばらつきもあるので、時間を掛けて少しずつ進めています。

【受講生からの意見・気づき】

- ・ これからの時代を先取りしていてすごいと思った。
- ・ 効率化だけでなく、気持ちも大事である。対面とのバランスを見ながら時間をかけて進めないといけない。
- ・ デジタル化で情報をどう扱うのかを考えていく事が重要であると感じた。
- ・ ICTに関する理解に温度差があることが課題である。
- ・ 町内会の活動に若い世代が興味を持ってもらうためにもICTの普及は必要であると感じた。



事例④ 港南台連合自治会の取組

発表者：川島 千春氏

『港南台駅周辺の清掃』



年2回、JR港南台駅周辺の清掃を行っています。30年以上前から続いている伝統ある活動です。その活動により地域に一体感が生まれ、参加者の「港南台愛」が深まります。周辺事業所の方も参加しており、地域を一緒に盛り上げていこうという意識が高まっています。ほかのイベントにおいても地域と事業所との協働がしやすくなっています。

【受講生からの意見・気づき】

- ・ 企業との協働が、「地域の一体感」につながって素晴らしいと思った。
- ・ ごみ拾いを「スポーツイベント化」したり、「ついで活動」ができたにより参加者が増えるかもしれないと思った。
- ・ 企業だけでなく学校との連携など、いろいろと新しい可能性は広がる気がした。
- ・ 誰も嫌な思いをしない活動であり、それが長続きするコツであると感じた。「シンプル・イズ・ベスト」
- ・ ボランティアの掘り起こし、若い世代の参加はどこの地域でも課題と感じた。



講義 企業と地域の協働の取組事例

講師：内海 宏氏



「野外サロン」や「移動販売」等の地域活動に企業等が入る意義としては、「企業も地域の構成員である」ということであり、人材としての貢献や、その専門性を活用した貢献などが考えられます。今後その重要性が増していくと思います。

【受講生からの意見・感想】

- ・ 野外サロン（畑）は特に男性にとって良いと感じた。男性はおしゃべりの需要が少ないが、農作業があれば集まることができると思う。
- ・ 子育て世代の地域活動への参加が課題と感じた。若い人への働きかけ方は企業の方がノウハウを持っていると思うので、協働できると良い。
- ・ 企業として、現在「まちの活性化」に取り組んでいる。事業者も地域にできることを考えているので、一緒にやっていきたい。

まとめ（内海先生より）

- ・全体的に受講生同士で話はずんでいると感じました。第1講のまち歩きをしたことで、より距離が縮まり本音ベースの話が出来たのではないのでしょうか。



学びのまとめ 集計結果

回答数 20件 / 回収率 95.2%

満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
19	0	0	0	1
95%	0%	0%	0%	5%

受講生の声（抜粋）

- ◎各活動が、全て地域住民のつながりづくりに結びついていくものだと感じた。
- ◎地区の活動、様々な取組の話が聞けてとても勉強になった。自分の地区で、その様な活動ができるのか考えるきっかけになった。
- ◎今回の事例の中で、自分の地域でも取り入れてみようというヒントを沢山もらった。
- ◎各事例とも参考になった。これから取り組んでいかななくてはならない課題であるので、もっと詳しく聞きたかった。
- ◎デジタル化も進めなくてはいけないと感じる事例があった反面、やっぱり人が大切と感じさせられる事例もあり、色々な活動のやり方があることを改めて理解した。
- ◎地域ごとに人口構成もバランスも違っていて、苦労しているポイントが違うことが実感できた。
- ◎グループ別の時間がもう少しあれば。もっと深く話し合いが出来たらもっとよかった。